

PAT-NO: JP409107797A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09107797 A
TITLE: COMBINABLE DIVIDING BOARD
PUBN-DATE: April 28, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME COUNTRY
WATANABE, SHUKICHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME COUNTRY
KK I BEAM N/A

APPL-NO: JP07300532

APPL-DATE: October 24, 1995

INT-CL (IPC): A01G001/08 , A47B096/20 , E04B002/74 , E04H017/16

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a combinable dividing board capable of simply building a soil guard in the flower bed, etc., of a domestic garden and a proper dividing member indoors or outdoors, and capable of being combined into a desired shape.

SOLUTION: This combinable dividing board is produced by forming the laterally same inclined surfaces on both the side ends of a board-like body and subsequently forming a fitting projection 15 and a fitting depression 16, which can be fit to each other, on the inclined surfaces of the body, respectively. The fitting projection and depression of a dividing board B whose end surfaces are formed at desired inclination angles by bending the board-like main body may continuously be combined with those of the other soil guard which is vertically inverted or not inverted, or a dividing board B whose central part can be bend may suitably be disposed in the connected dividing boards.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-107797

(43)公開日 平成9年(1997)4月28日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
A 01 G 1/08			A 01 G 1/08	
A 47 B 96/20			A 47 B 96/20	E
E 04 B 2/74	501		E 04 B 2/74	501K
E 04 H 17/16	103		E 04 H 17/16	103

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全5頁)

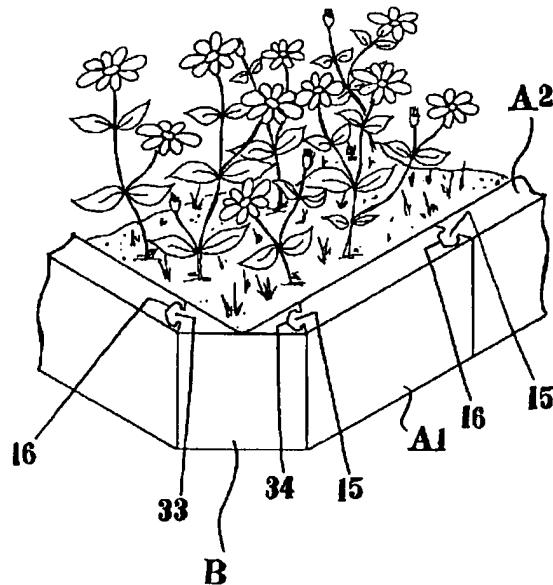
(21)出願番号	特願平7-300532	(71)出願人	594121431 株式会社アイピーム 新潟県燕市大字小池3317番地
(22)出願日	平成7年(1995)10月24日	(72)発明者	渡邊 修吉 新潟県燕市大字小池3317番地 株式会社ア イピーム内
		(74)代理人	弁理士 近藤 彰

(54)【発明の名称】組み合わせ仕切り板

(57)【要約】

【課題】家庭園の花壇等での土留めや、屋内外での適宜な仕切りを、簡単に構築でき且つ所望の形態とすることのできる組み合わせ仕切り板を提供する。

【解決手段】板状本体の両端部を、表裏方向に対して同一の傾斜面に形成すると共に、互いに嵌合する嵌合凸部15と嵌合凹部16を前記傾斜面に何れか一方を形成した仕切り板A並びに板状本体の折曲によって両端面を所望の傾斜角度とした仕切り板Bで、土留め板Aを上下逆転したり若しくは逆転せずに互いの嵌合凹凸部を嵌合して連続させたり、中間部を折曲可能とした仕切り板Bを適宜介在せしめてなる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】樹脂製板状本体の両端部を、表裏方向に對して同一の傾斜面に形成すると共に、互いに嵌合する嵌合凸部と嵌合凹部を前記傾斜面に何れか一方を形成してなることを特徴とする組み合わせ仕切り板。

【請求項2】請求項1記載の組み合わせ仕切り板に於いて、板状本体を樹脂の表裏板を組み合わせて中空体に形成したことを特徴とする組み合わせ仕切り板。

【請求項3】請求項1又は2記載の組み合わせ仕切り板に於いて、高さの相違する少なくとも二種類を形成してなることを特徴とする組み合わせ仕切り板。

【請求項4】請求項1記載の組み合わせ仕切り板に於いて、板状本体を樹脂製で形成すると共に、中央部分を折曲可能な厚みに形成して、板状本体の折曲によって両端面を所望の傾斜角度としてなることを特徴とする組み合わせ仕切り板。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、花壇の周囲部分や、植木の周囲の土留め、屋内外の各種仕切りや、板状体を組み合わせて形成する各種物品を構築材料となる組み合わせ仕切り板に関するものである。

【0002】

【従来の技術】花壇の囲いなどの土留め手段は、コンクリートブロックや煉瓦等が専ら使用される。また従来ではプラスチック製煉瓦（ブロック）が提案されている（実開平2-20440号）。このプラスチック製ブロックは、箱を伏せた形状で、上面に係合凹部を設けブロック底縁に係合凹部に係止する爪を設け、ずらして積層した際に係合凹部に爪が係止されるようにして、積層連結するようにしたものである。また屋内外の仕切りとしては、屏風や板状体の下方に起立用の脚を設けた仕切りが知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】土留めに於いて、前記のコンクリートブロックや煉瓦を使用する場合には、相応の重量があり、取り扱いに不便であり且つ構築に熟練を要する等各家庭庭園などの使用には最適とは云えない。またプラスチック製ブロックによる土留めは、1個ずつの積上げとなり、構築自体が繁雑である。

【0004】また室内の仕切り等は、独立した仕切りを単に並べるだけであり、隣接する仕切りとの間に直ぐに隙間が生じてしまい、しっかりとした仕切りの構築はできない。そこで本発明は、土留めや屋内外の仕切りを、簡単に構築できる組み合わせ仕切り板を提案したものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明に係る組み合わせ仕切り板は、樹脂製板状本体の両端部を、表裏方向に對して同一の傾斜面に形成すると共に、互いに嵌合する嵌

2

合凸部と嵌合凹部を前記傾斜面に何れか一方を形成してなることを特徴とするものである。

【0006】また特に前記組み合わせ仕切り板に於いて、板状本体を樹脂製の表裏板を組み合わせて中空体状に形成したり、板状本体を樹脂製で形成すると共に、中央部分を折曲可能な厚みに形成して、板状本体の折曲によって両端面を所望の傾斜角度としてなることを特徴とするものである。更に高さのみ異なる二種類を形成してなることを特徴とするものである。

10 【0007】従って組み合わせ仕切り板を上下逆転して嵌合凹凸部を嵌合して連続させると、長尺板となり、上下逆転せずに嵌合凹凸部を嵌合して連続すると、傾斜端面の傾斜角度に対応して折曲する長尺板が形成されるので、任意の範囲を囲繞する土留めや仕切りを得ることができる。

【0008】また特に板状本体を折曲自在にすると、適当な角度でカーブする土留めを容易に形成できるものである。

20 【0009】更に高さの異なる二種類を組み合わせることによって、隣接連結する仕切り板が上下2個となるので、仕切りの高さを任意に高くすることができる。また表裏二枚の板で中空体状に形成すると、軽量とすることができる。

【0010】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施形態について説明する。実施形態として示した組み合わせ仕切り板は構造が相違する二種類で、非折曲タイプの組み合わせ仕切り板Aと、折曲可能な組み合わせ仕切り板Bであり、組み合わせ仕切り板Aは、表面板1と裏面板2から構成される。

30 【0011】表面板1は、表面部11の周囲背面に周壁部12を突設したもので、表面部11には凹凸形状で適宜な模様を施しており、周壁部12の端縁適宜箇所には、裏面板2との連結部13を設け、特に左右周壁部12は、平面から見た場合に等角台形となるように傾斜端面14a, 14bとする。勿論図示した通りプラスチック成形によって全面による傾斜端面とせずに端縁による傾斜端面としても良いものである。そして左右の傾斜端面の一方14aには蟻状とし且つ傾斜面14aとの縦直行面に対して前後対称に形成した嵌合凸部15を突設し、他方傾斜面14bには、前記嵌合凸部15が密嵌する嵌合凹部16の一部を構成する背部部17を形成してなるものである。

40 【0012】裏面板2は、裏面部21の周囲背面に周壁部22を突設したもので、周壁部22の前記連結部13との対応位置に連結部23を設け、左右周壁部22は、平面から見た場合に前記表面板1と連続して等角台形となるように傾斜端面24a, 24bとする。また傾斜端面24aには、表面板11との背部部17とで嵌合凹部16を構成する前面部25を形成してなるものである。

50 【0013】裏面板2は、裏面部21の周囲背面に周壁部22を突設したもので、周壁部22の前記連結部13との対応位置に連結部23を設け、左右周壁部22は、平面から見た場合に前記表面板1と連続して等角台形となるように傾斜端面24a, 24bとする。また傾斜端面24aには、表面板11との背部部17とで嵌合凹部16を構成する前面部25を形成してなるものである。

【0013】そして表面板1と裏面板2とを対面させ互いの周壁部12, 22を当接すると共に、連結部13, 23と互いに連結（例えば図示の通り係止状態とする）すると、左右側端面が傾斜面となり、それぞれ嵌合凹凸部15, 16を備えた組み合わせ仕切り板Aが形成される。

【0014】組み合わせ仕切り板B（3）は、図4、図5に例示するように、樹脂一体成形で形成される板状体で、表面部31の周囲背面に周壁部32を突設したもので、表面部31の中間部分は、折曲自在となるように薄くすると共に、周壁部分32もその幅を徐々に狭くして折曲可能部分は周壁部をなくしてなるものである。更に左右の周壁には、前記組み合わせ仕切り板Aと同一形状の嵌合凸部33及び嵌合凹部34を形成してなるものである。

【0015】而して組み合わせ仕切り板Aを用いて仕切りを形成するには、図3に例示する通り、第一の組み合わせ仕切り板A1に対して、隣接する組み合わせ仕切り板A2を上下逆転させて互いの嵌合凹凸部15, 16を嵌合して連続連結すると、組み合わせ仕切り板Aは平面視等角台形であるから直線状に連結され細長い1枚の板状の仕切りが形成される。更に隣接する組み合わせ仕切り板A2を、上下逆転せずに互いの嵌合凹凸部15, 16を嵌合して連結すると、連結部分で傾斜端面の傾斜角度に対応（傾斜角度の2倍）した角度で折曲した仕切りを得ることができる。

【0016】従って組み合わせ仕切り板Aを、適宜上下逆転させて多数組み合わせると、所望の範囲を囲繞する仕切りを容易に得ることができる。勿論全体が平面枠状に接続せずに、平面コ状でもL状でも可能である。尚土留めに使用する際には、形成した仕切りの下部を埋設する等土留めした土圧に充分耐え得るようにする必要がある。

【0017】また組み合わせ仕切り板Aの途中に組み合わせ仕切り板Bを介在して連結すると、図6、図7に例示する通り、組み合わせ仕切り板Bの中間部は折曲自在であるから、鋭角部分を備えた土留め等の平面から見た場合に所望の角度で変化する土留め（仕切り）を得ることができるものである。

【0018】更に図8、9に示すように、仕切り板Aと同一幅で同一形状の嵌合凹凸部15, 16を備えているがその高さが1/2の仕切り板Cの二種類を組み合わせて仕切りを形成する際に、仕切り板A1に隣接して低い仕切り板Cを嵌合連結し、低い仕切り板Cの上に、通常の仕切り板A2を積層すると共に、仕切り板A1と嵌合連結することを連続的に行うと、長さ方向にも高さ方向にも適宜な広がりのある仕切りを容易に得ることができるものである。

【0019】従って低い仕切り以外にも高い仕切りを得

ることができ、更には仕切り以外にも筒状に形成して傘立てとしたり、枠上に形成して子供の遊び道具入れ等の家具としても使用できるものである。

【0020】

【発明の効果】以上の通り本発明は、板状本体の両端部を、表裏方向に対して同一の傾斜面に形成すると共に、互いに嵌合する嵌合凸部と嵌合凹部を前記傾斜面に何れか一方を形成した組み合わせ仕切り板並びに板状本体の折曲によって両端面を所望の傾斜角度とした組み合わせ仕切り板で、組み合わせ仕切り板を上下逆転したり若しくは逆転せずに互いの嵌合凹凸部を嵌合して連続させたり、中間部を折曲可能とした組み合わせ仕切り板を適宜介在せしめることによって任意の範囲を囲繞する仕切りや、更に高さの相違する仕切り板を組み込むことで所望の高さの仕切りを容易に得ることができたものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態の組み合わせ仕切り板Aの斜視図。

【図2】同組み合わせ仕切り板Aの一部切断した平面図。

【図3】同組み合わせ仕切り板Aの連結使用状態の平面図。

【図4】同組み合わせ仕切り板Bの全体斜視図。

【図5】同組み合わせ仕切り板Bの断面図。

【図6】同組み合わせ仕切り板Bの介在状態の説明図。

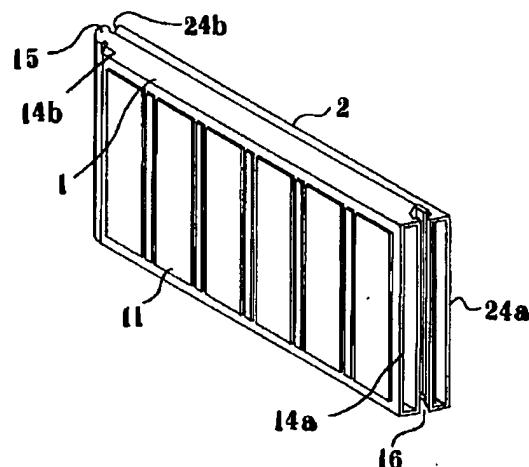
【図7】本発明の使用状態の説明図。

【図8】本発明の高さ方向に延長させた状態の説明図。

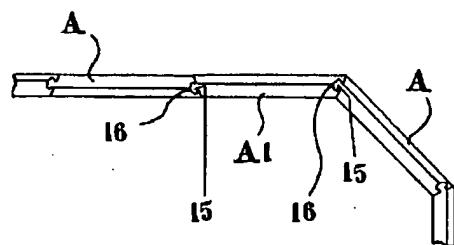
【符号の説明】

A	組み合わせ仕切り板
C	組み合わせ仕切り板（高さの低い物）
1	表面板
1 1	表面部
1 2	周壁部
1 3	連結部
1 4 a, 1 4 b	傾斜端面
1 5	嵌合凸部
1 6	嵌合凹部
1 7	背面部
2	裏面板
2 1	裏面部
2 2	周壁部
2 3	連結部
2 4 a, 2 4 b	傾斜端面
2 5	前面部
B (3)	組み合わせ仕切り板（中間部折曲可能な物）
3 1	表面部
3 2	周壁部
3 3	嵌合凸部
3 4	嵌合凹部

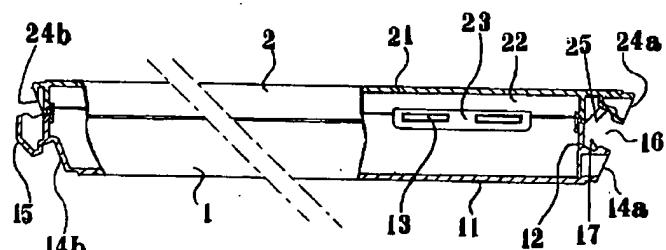
【図1】



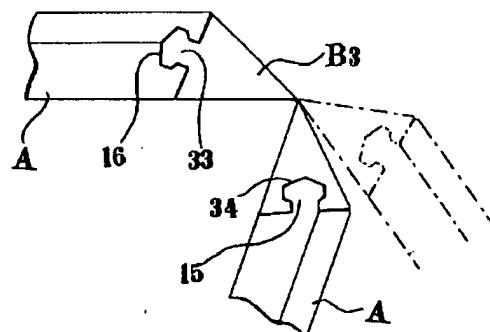
【図3】



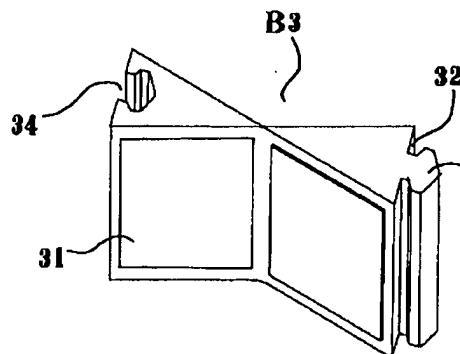
【図2】



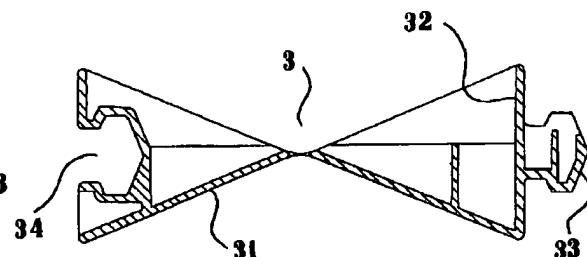
【図6】



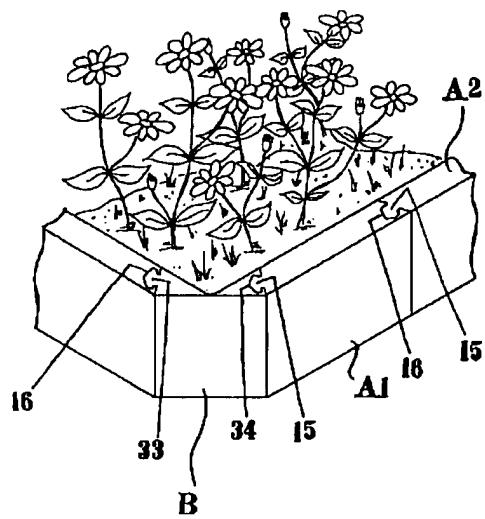
【図4】



【図5】



【図7】



【図8】

